

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	20226012	研究期間	平成20年度～平成24年度
研究課題名	ギリシア古代都市メッセネおよびフィガリアの建築と都市環境に関する学際的研究	研究代表者 (所属・職)	伊藤 重剛（熊本大学・大学院自然科学研究科・教授）

【平成23年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○ A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

本研究は、従来、古代ギリシアの建築・都市文明の解明という基本的な問題に、二つの古代都市の建築遺構の発掘及び実測調査を取り入れて、古代都市文明の様相を明らかにしようとする研究であり、幾つかの重要な進展があり研究は概ね順調である。

例えば、古代都市メッセネについては、過去10年間のギリシア隊との共同調査による成果を踏まえて劇場遺構の調査と復元、歴史的な位置付けの研究を行い、劇場の規模や様式を明らかにしている。本格的な学術調査が行われていなかった古代都市フィガリアについては、市域の地形や城壁の平面及び立面と壁の積層法を調査するとともに、レーザー及び電気探査による地中探査を実施し、古代アゴラと推定される地中遺跡の位置と規模特定のための発掘事前調査に成果を挙げている。

しかし、フィガリアにおいては、政治的状況から現時点で発掘に着手できていないため、当初計画どおりの研究遂行の可能性が不明であるが、発掘不許可に際しては研究代表者によって研究遂行のための対策が立てられているので、研究の更なる進展と研究成果に期待したい。

【平成25年度 検証結果】

検証結果	研究進捗評価結果と比べ、一定の成果はあったが、一部に当初目標に対して研究計画の変更により期待した成果が上げられなかった。
A-	ギリシア古代都市としてメッセネ及びフィガリアの2つの都市を対象とし、その発掘と実測調査を行って、古代都市文明における建築・都市環境を明らかにしようとする研究である。メッセネについては、劇場の建築遺構の実測調査から座席や舞台などの復元を試みギリシア建築史の中での歴史的な位置付けを行うなど十分な成果が得られた。 一方で、フィガリアにおいては発掘許可の条件が整わずに当初の計画を変更し、これまで公刊された地形図が無かったことから、まず地形図を作成し、そこに現存する都市遺構を描くことで古代都市の全体像を明らかにした。研究開始後に発掘許可を取るとするのは準備不足であり、研究分担者との有機的な連携が保たれなかった。ただし、測量を中心とした計画変更では一定の成果が達成できたので、今後、国際的な学術誌への発表により、成果が社会的に周知されることを期待する。